

## 川崎市文化協会会長賞作品

### 『わたしのふるさと「川崎」』

西菅小学校 5年 横川 七海

わたしの家の近くには、小沢じょうしという山があります。1さい半ぐらいのときからずっと行っていて、10さいになった今でも父といっしょに行くのが好きです。わたしが小沢じょうしを好きな理由は、四季におうじていろいろなことができるからです。春は山の頂上にあるベンチにねそべり、のびをして、こもれびを体じゅうにあびます。こもれびをあびたときわたしは、頭がスッキリして、体がかかるくなる感じがします。小沢じょうしのベンチの上は、自分のベッドの上とおなじくらい気持ちがいい場所なのです。夏は、父といっしょにカブトムシやクワガタムシをとります。毎年のようにコクワガタにまじってノコギリクワガタが2～3びき見つかります。それに、きれいなチョウがよくとんでいます。たまに、スズメバチもいますが……。秋は、こうようがきれいです。ドングリやマツボックリもよくおちています。1回、ドングリをひろってきて庭に植えたことがあります。そうしたらクヌギがはえてきて、いまではわたしの4倍ぐらいの高さに成長しました。それからというもの、わたしは庭を森のようにすべく、ドングリを小沢じょうしからとってきては植えています。その成果か、クヌギやコナラなどの木が7～8本はえています。いまはまだ小さいけれど、だんだん大きくなるにつれて森らしくなってくるかなと思っています。冬はおちばの山ができるので、それにダイブするのが気持ちいいです。おちばの中にうもれると、とてもやわらかくてあたたかいです。ずっとうもれていたくなる、すてきな天然のかけぶとんのようなのです。頭から足先まで体すべてに父におちばをかけてもらったこともあります。父によると、スッポリうもれてまったわたしのすがたが見えなかったそうです。こんなふうに四季におうじていろいろなことが楽しめるのが、小沢じょうしのいいところです。

昨年、校外学習で都会の方へ行ったことがありました。そしてそこに着いて見学をしたときに、空気がとてもくさく感じました。家に帰って、「川崎は空気がきれいでいいよね。」と言うと、それを聞いていた父が、川崎も昔はあまりきれいじゃなかったんだよと話してくれました。昔の川崎は工場から出るけむりやガスのせいでとてもくさく、多摩川もきたなかったそうです。昔は多摩川にじかに洗ざいなどを流していたせいで多摩川があわだらけになってしまったそうです。でも廃水処理の方法を工夫したり、工場から出るよごれた水をそのまま流さないようにしたりしてみんなが努力した結果、どんどん多摩川がきれいになっていったそうです。そして今では、アユも来るとききました。アユはひかくてききれいな水でないと生きられないので、川や空気はとてもきれいになったんだなと思いました。しかし、家がたくさん建って、森はとてもへってしまったそうです。でも、空気も川もきれいにできたのだから、これから森や緑をもっとふやすことも、きつとできると思います。たとえば、わたしが庭にいろいろ植えたように、空いたスペースに植物を植えたりすれば川崎の緑がもっとふえて、今以上にすてきな市になると思います。

わたしは大人になったら、わたしが父と遊んだように、自分の子どもと自然の中で遊ぶことがゆめです。たとえば、いっしょにドングリひろいをしたり、カブトムシを取りたいです。そのためにわたしは将来生き物の生態について調べて、みんなによびかけたり自分でやってみたりして将来も大好きな森がありつづけるように努めます。この川崎が、みんなの良きふるさととなるように。